

病院管理栄養士の栄養相談スキル評価方法（評価表）確立の検討

Examination of evaluation method of nutritional counseling skill by hospital managerial dietician

佐藤 祐子

Yuko Sato

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 博士後期課程

キーワード：病院管理栄養士，栄養相談，スキル評価票

Key words : Hospital managerial dietician, Nutritional counseling, Evaluation method of skill

1. 研究目的

病院における栄養相談（栄養指導）は，日々増加している生活習慣病など多岐にわたる疾病治療が対象であり，患者の食生活改善の大きな一助となっている．入院患者や外来患者を対象とした栄養相談は，ほとんどの病院で実施されており，平成 28 年の入院・外来栄養食事指導料の改訂により，栄養相談は国の医療費削減にも効果があるとされている．また，健康増進を目的とした「健康日本 21（第二次）」の施行により，生活習慣病予防を含めた一次予防の観点からも栄養相談の効果が期待されている．

患者の食生活改善効果は管理栄養士の栄養相談スキルに大きく影響される．栄養相談に関して，学会や研修会における情報収集や情報交換はあるものの，栄養相談の実際の内容を知り得る手段はほとんどない．同時に管理栄養士の栄養相談スキルを評価する方法は確立されていない．栄養相談スキルの評価方法を確立することで，管理栄養士の栄養相談レベルを可視化することが可能であると考えられる．

本研究では，病院管理栄養士自身のスキル，コンピテンシー，自己効力感の向上を目指して，病院の栄養相談において実施可能なスキル評価方法の確立を目的とする．

2. 研究実施内容

(1) 目的

前報（「病院管理栄養士の栄養相談スキル評価方法の検討」，「人間生活文化研究」（International Journal of Human Culture Studies）No.28 2018，大妻女子大学人間生活文化研究所 大学院生研究助成(A) 平成 29 年度 研究実施報告書，）で作成した

栄養相談スキル評価票が実際の臨床現場で使用できるか否かを確認し，さらには評価票の信頼性および妥当性を確認する目的で，評価票の試用調査を行った．本研究は，「大妻女子大学生命科学研究倫理委員会」および「東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会」の承認を得て実施した．承認番号（大妻女子大学：28-030，東京医療保健大学：教 28-13）

(2) 調査対象者

対象者として，被評価者は病院に勤務する新人管理栄養士（栄養相談未経験者から 1 年未満，また各病院において新人とみなされる場合）とし，評価者を栄養相談経験のある管理栄養士とした．いずれも性別や年齢は不問とした．今回の調査では，同意書の提出があった 11 施設に所属する新人管理栄養士延べ 35 名を調査対象者とした．

(3) 調査方法

2018 年 7 月から 10 月にかけて，国内の（特に関東圏中心）病院に郵送法にて調査一式（調査依頼書，説明文書，同意書，調査票（評価票，質問紙），返信用封筒）を送付した．最終的に，依頼した 30 施設のうち，11 施設の協力が得られた．

各項目について 2 件法「○：1 人で実施できるレベル」「×：未完成」としたが，検定をかけるため，○を 1 点，×を 0 点とした．各カテゴリの評点（導入スキル：5 点，知識：10 点，基本的態度：4 点，まとめ：4 点）および総合評点（合計 23 点）を算出した．そして，各カテゴリ評点および総合評点は得点率を変数（ $\{(○: 1 点) \times 項目数 + (×: 0 点) \times 項目数\} / 使用項目数$ ） $\times 100$ ）として用いることとした．

因子分析：導入スキル尺度 5 項目，知識尺度 10 項目，基本的態度尺度 4 項目，まとめ尺度 4 項目の変数を用いて，各カテゴリにおける探索的因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行った。因子数はカイザー・ガットマン基準およびスクリープロット基準に従い決定した。因子パターンの負荷量の基準値は 0.35 以上とした。

信頼性の検討：全尺度の内的整合性は Cronbach の α 係数より求めた。また，カテゴリ評点ごとに Spearman の順位相関係数を算出し検討した。

妥当性の検討：内容妥当性は，質問紙調査を実施し検討した。質問内容は，「スキル評価票の使いやすさ」，「スキル評価票の新人管理栄養士のスキル育成・向上への有効性」，「標準スキル評価票としての全国共通使用の可能性」とし 5 件法にて回答を求めた。

3. まとめと今後の課題

(1) まとめ

因子分析：得られた各カテゴリ評点を用いて，各カテゴリにおける探索的因子分析（主因子法・プロマックスを）を行った結果，「導入スキル」では 2 因子 4 項目，「知識」では 4 因子 10 項目，「基本的態度」では 2 因子 4 項目，「まとめ」では 2 因子 4 項目が抽出された。

信頼性の検討：全尺度の Cronbach の α 係数は， $\alpha=0.798$ であり，内的整合性が認められた。また，各カテゴリ間において有意な相関関係が認められた。

内容妥当性の検討：関連文献からの項目抽出，作成時に管理栄養士から意見を求めていることから，十分に妥当性を得ていると判断した。また，今回の調査で使用したスキル評価票を試用し，「使いやすさ」「有効性」「全国共通使用可能性」を 5 件法にて回答を求めた結果，「使いやすさ」 $=4.0\pm 0.7$ ，「有効性」 $=4.0\pm 0.6$ ，「全国共通使用可能性」 $=3.6\pm 0.7$ であった。また，スキル評価票の使用によって「スキル向上」以外に期待する効果として，70.8%が「実践できているかの把握」，54.2%が「理解度の把握」ができると答えていた。

以上の結果より，現場で使用可能な「栄養相談スキル評価票」を確立することができた（図）。

(2) 栄養相談スキル評価票の活用可能性

作成したスキル評価票は，新人教育の基礎力評価のツールとして利用可能であり，新人管理栄養士自身のフィードバック（振り返り）シートとしても有効に活用できると考える。

他に利用可能な場面として，人手不足で後進栄養士の教育計画が難しい施設や 1 人勤務体制の施設などが考えられる。1 人勤務体制の施設では，自己評価票としての使用を勧めることで，自身の不足するスキルの確認や栄養相談の標準化が図れると推察される。

また，今回，評価者側自身の栄養相談内容の振り返りができたとの声もあり，指導者や復職者用の栄養相談スキルの確認票としても利用できると考えられた。

(3) 今後の課題

今回作成した新人管理栄養士の栄養相談スキル評価票に対し，複数の意見があがったため，これらの意見を踏まえて内容の再検討・改善をし，より良い評価票の作成をしていく必要がある。

また，評価票のさらなる信頼性を高める上で，施設数を増やし，大規模な調査が必要であると考ええる。現状では，栄養相談の内容や実施状況，後進栄養士の育成状況に関する調査報告が少ないため，それも含めて調査を実施したい。

4. この助成による発表論文等

① 雑誌論文

[1]佐藤祐子，岩瀬靖彦，「新人管理栄養士を対象とした栄養相談スキル評価票（Nutritional Counseling Skill Assessment Sheet : NCSAS）の作成と信頼性・妥当性の検討および栄養相談キー・コンピテンシーの抽出」，日本体力健康栄養学会誌，査読有，第 24 巻 1 号（2019），掲載確定

管理栄養士栄養相談スキル 評価票 実施日：平成 年 月 日 ()

栄養相談実施者 氏名 _____ 氏名 _____
 栄養相談歴 (回目)： 月 (約 回目) 栄養相談歴：約 年

患者 年齢 _____ 歳 (男・女)

使用した項目に
 を入れて下さい

O：1人で実施できるレベル
 X：課題が残るレベル (未完成)

※栄養相談を観察し、以下の項目をOかXで評価して下さい。

	評価項目	✓	O・X	コメント
導入スキル	① 挨拶・患者の氏名確認ができた			
	② 自身の自己紹介ができた			
	③ 患者に医師から受けた説明内容を確認できた			
	④ 患者が自身の状態(病態)を理解しているかを確認できた			
知識	⑥ 患者の状態(病態)を説明できた			
	⑦ 患者の栄養評価、栄養診断の特徴・意義を説明できた			
	⑧ 患者の食に関する知識・態度・行動をアセスメントできた			
	⑨ 患者に応じた食事調査法を選択できた			
	⑩ 患者の食生活で改善すべき課題を抽出できた			
	⑪ 抽出した課題の優先順位を考慮し、目標(短期・長期)が立てられた			
	⑫ 食生活改善のための目標達成に向けた計画を立てられた			
	⑬ 患者に応じた献立作成や食事形態を提案できた			
	⑭ 患者に応じた教材(資料)を用いられた			
	⑮ 栄養剤・特殊食品・補助食品・サプリメント等について説明できた			
	基本的態度	⑯ 傾聴できた		
⑰ うなずき・あいづち・反復ができた				
⑱ 分かりやすい言葉を用いられた				
⑲ 聞き取りやすい声の大きさと話せた				
まとめ	⑳ 後半で要約を述べる事ができた			
	㉑ 患者に言い忘れた・聞き忘れたことがないかを尋ねられた			
	㉒ 栄養相談全体の流れがスムーズだった			
	㉓ 患者に応じたアプローチおよび次に繋がる栄養相談ができた			

栄養相談実施時間： _____ 分

【評価者からのコメント】

◎自身の栄養相談の振り返りをしてみましょう。
 今回の反省点や課題を把握し、次回の栄養相談に活かしましょう。

図. 管理栄養士栄養相談スキル評価票